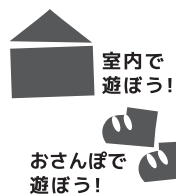


絵合わせカード

20種類!

- ◆カード20種類×2組
- ◆自由記載カード4枚
- ◆説明書1組



まち保育
防災・減災

もっと! 遊んで学んで
てくてく まっち つながろう!

実践力 アップガイド



子どもたちと
まちの資源
を学ぼう!



子どもたちと
まちのつながり
を作ろう!



みんなで災害に備えよう

東海道の宿場町「神奈川宿」に由来する横浜市神奈川区は、山と海に囲まれ、交通の便にも恵まれた暮らしやすいまちです。その一方で、津波や河川の増水、がけ崩れや木材密集地など、多くの災害リスクを抱えているという側面もあります。

横浜市神奈川区では、2019年度より横浜市立大学と協働で、区内の約130の保育・教育施設を対象に近隣コミュニティとの共助構築に向けた検討・実践プロジェクトを行ってきました。本事業では「まち保育」(p.8参照)の視点から、現場の保育士や職員とともに、日常的な地域連携の中で防災・減災対策を行う手法について考えてきました。このプロジェクトの集大成として、子どもたちと保育・教育施設の職員が、日常の活動の延長線上で、まちの資源と活用方法を防災・減災の視点を交えて学ぶことができる教材を作りました。それが「てくてくまっち」です。

「てくてくまっち」で取り扱うテーマは、下記の4つです。

- ①『知り育つ』…… まちの資源を知ることとまちと関わりながら育つ
- ②『つながる』…… まちの人や機関・組織とつながる
- ③『防災・減災』… 自助・共助の視点で防災・減災について学ぶ
- ④『SDGs』…… まちで子どもが育つことと持続可能な開発目標(SDGs)との関わりを考える

「てくてくまっち」を繰り返し遊びながら4つのテーマに触れることで、子どもたちも保育・教育施設の職員もまちの資源がより身近になり、自助力・共助力を高め、防災・減災への知識を広げることができます。

災害リスクはそれぞれのまちによってさまざまですが、「てくてくまっち」の20のカードは横浜市の中でも神奈川区で役立つキーアイテムを厳選しました。

子どもたちはやがて園を卒園しますが、まちとの関わりは続きます。「てくてくまっち」が子どもたちとまちの関わりのはじめの一步を応援し、子どもたちの成長の一助となれば幸いです。

2022年3月 横浜市神奈川区こども家庭支援課
横浜市立大学国際教養学部都市学系三輪律江研究室
まち保育研究会

てくてく
まっち

各カードのポイントと子どもへの言葉がけ例

カード紹介

20種類!

POINT
4つのテーマに沿って学ぼう!

知り育つ

まちの資源を知ること
まちと関わりながら育つ

つながる

まちの人や機関・組織と
つながる

防災減災

自助・共助の視点で
防災・減災について学ぶ

SDGs

まちで子どもが育つことと
持続可能な開発目標 (SDGs)
との関わりを考える



【カーブミラー】

知り育つ ●鏡には何が映って見えるかな? どうしてそんなふうに見えるのかな?

防災減災 ●車の往来が多いところや見通しの悪いところに設置されています。
●カーブミラーを見つけたら車や自転車に注意!

SDGs GOAL 3 GOAL 9 GOAL 11

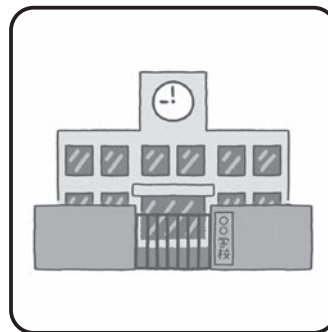


【川・水路】

知り育つ ●水の流れる音が聞こえるかな? 生き物はいるかな?

防災減災 ●大雨の時は水かさが増すので危険です。絶対に見に行かない、近づかないように。
●水路によっては、水道が止まった時の生活用水(飲料不可)として使えます。

SDGs GOAL 6 GOAL 9 GOAL 11 GOAL 13



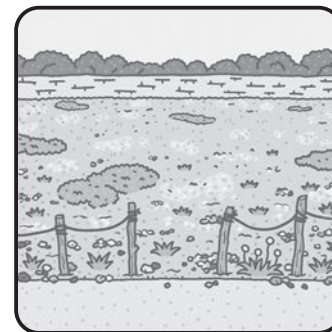
【学校】

知り育つ ●卒園したら通う場所。

つながる ●先生や児童生徒、避難所運営委員などのみなさん。

防災減災 ●災害時にここに避難したり生活したりすることがあるかもしれません。

SDGs GOAL 1 GOAL 4 GOAL 11 GOAL 13



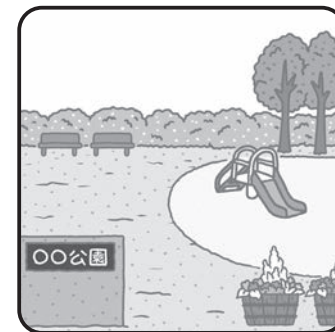
【空き地】

知り育つ ●おさんぽ途中のちょっとした休憩場所として日頃から活用できますか?

つながる ●土地の所有者や近隣の人。
※使用許可を通じてつながりを深められます。

防災減災 ●おさんぽ途中で地震が起きたら、ここに一時避難。

SDGs GOAL 11 GOAL 13 GOAL 15



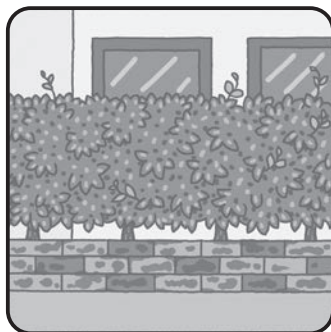
【公園】

知り育つ ●みんなの遊び場。まちの人の憩いの場。

つながる ●ほかの園や公園愛護会などのみなさん。

防災減災 ●いざという時に避難場所になります。トイレや水道の様子も子どもたちと確認しておきましょう。
●延焼防止機能もあります。

SDGs GOAL 9 GOAL 11 GOAL 13 GOAL 15



【生垣】

知り育つ ●まちに緑が増えて、景観がよくなります。

つながる ●所有者や植木屋など手入れをしている人。

防災減災 ●生木なので延焼防止にもなり、根が張っているので転倒しにくいです。

※ブロック塀や石垣は震災時に倒れることがあるかもしれないので気を付けて。

SDGs GOAL 11 GOAL 13 GOAL 15



【マンホール】

知り育つ ●まちには何種類あるかな? マークは何を示してる?

●まちのオリジナルデザインもあるかな?
●道路の下には暮らしを支える物が隠れています。

防災減災 ●消火栓は火事などの非常時に使います。
●大雨の時は下水道のマンホールから離れましょう。

SDGs GOAL 6 GOAL 9 GOAL 11 GOAL 13



【まちの〇〇さん】

知り育つ ●子どもたちがまちのみなさんを知ることは、まちのみなさんに子どもたちのことを知ってもらうことにもなります。

●交流を積み重ねると思いがけないことが生まれるかもしれません。

●いざという時にはみんなで助け合いましょう。

SDGs GOAL 11 GOAL 16 GOAL 17



【交番】

知り育つ ●まちの頼れる場所です。落とし物を届けたり、道を聞いたりできます。

防災減災 ●いざという時は駆け込んで。
※まちの消防署ともつながりを深めておきましょう。

SDGs GOAL 11 GOAL 16 GOAL 17



【まちのにおい】

知り育つ ●まちにはいろいろなにおいがあふれています。
●においは、いつ、どこからただよってくるのかな?

つながる ●においを通して、まちの人と交流しましょう。

防災減災 ●いつもと違う不快なにおいがしたら要注意。土砂災害などの前兆かも。

SDGs GOAL 9 GOAL 11 GOAL 17



【防災倉庫】

- 知り育つ** ●まちのどこにある？どんなものが入っているのかな？
- つながる** ●防災倉庫を管理するまちのみなさん。
- 防災減災** ●一般的には非常食や飲料水などが保管されています。子どもたちと見学する機会を作るのもよいですね。



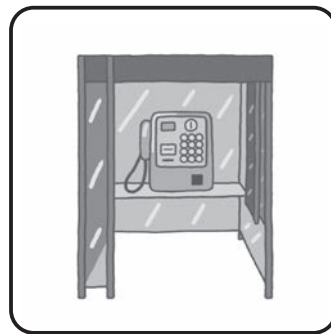
【避難所標識】

- 知り育つ** ●避難所はどこにある？標識はどこに表示されている？
- まちにあるいろいろな標識を探してみましょう。
- つながる** ●避難所運営委員などのみなさん。
- 防災減災** ●園にいられない時には避難所に行きます。



【津波・海拔標識】

- 知り育つ** ●おさんぽコースの海拔(海面からの高さ)はどれぐらい？
- 防災減災** ●いざという時は数字が大きい方に逃げます。
- 標識を確認してまちの地形を把握しましょう。
- ※似ているけれど意味が全然違う「浸水深」標識もあります。



【公衆電話】

- 知り育つ** ●どこにある？どうやって使うのかな？
- 使う機会は減ったけれど、まちの大切なツールです。
- 警察110番や消防・救急119番にかけるときは無料。
- 防災減災** ●災害や停電の時でも使えることが多いです。数が少なくなっているので場所をチェック。



【自動販売機】

- 知り育つ** ●住所表示ステッカーを見れば今いる住所がわかります。
- 防災減災** ●夜は電気がついているから明るいですが。
- 災害時には無料で飲み物を提供してくれる「災害対応自販機」もあります。



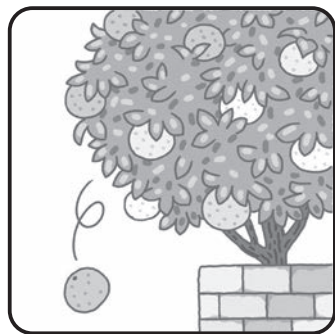
持続可能な開発目標 (SDGs) 17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

GOAL

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう

※ p.7 参照



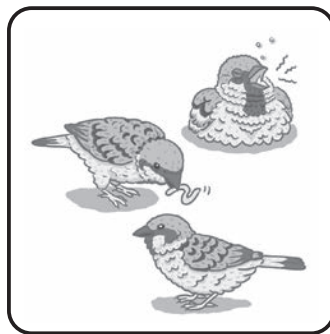
【実のなる木】

- 知り育つ** ●何の木かな？季節ごとの変化は？(色、形、においなど)
- まちのランドマーク。目印です。
- つながる** ●所有者や植木屋など手入れをしている人。見かけたら声をかけてみましょう。
- ※ 植木屋さんは「庭」を通してまちをよく知る人です。



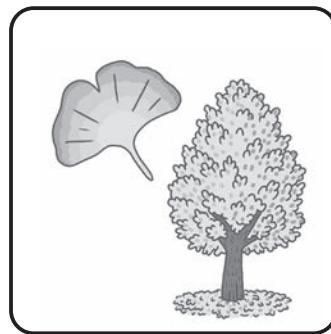
【虫】

- 知り育つ** ●どんな虫をみつけた？
- 見つけた季節はいつ？何を食べているのかな？
- 目線を変えて、まちの中を探してみましょう。
- つながる** ●生息場所をおさんぽマップに書き込んでみましょう。



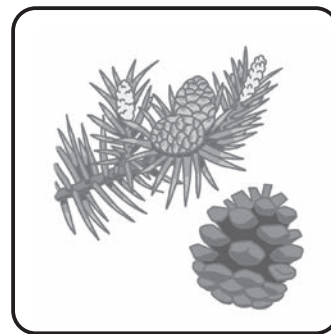
【鳥】

- 知り育つ** ●どんな鳥をみつけた？
- 鳴き声は？色や大きさは？何匹いっしょにいる？
- 季節によって住む場所はちがうかな？
- つながる** ●自治体のシンボルとして制定された「鳥」はありますか？



【イチョウ】

- 知り育つ** ●いつ、どんな色に変わるかな？実はどんなにおい？
- 雄の木と雌の木があります。
- つながる** ●落ち葉で排水溝が詰まらないように掃除をしてくれる人がいます。見かけたら声をかけてみましょう。
- 防災減災** ●燃えにくい樹種なので延焼防止に役立っています。



【松ぼっくり】

- 知り育つ** ●いつ、どこから落ちてくるかな？形は変わる？どんなにおい？何して遊ぶ？
- つながる** ●落ち葉で排水溝が詰まらないように掃除をしてくれる人がいます。見かけたら声をかけてみましょう。
- 防災減災** ●松ぼっくりは油分が多く、着火剤としても使えます。



オリジナルのカードを作ってみよう！

【自由記載カード】

- 自分たちのまちに〈大切なもの〉や〈大切な場所〉はありますか？つながりたい〈人〉や〈機関・組織〉はありますか？ぜひ子どもの目線で探して、「てくてくまっち」に加えてみてください。
- 子どもたちに伝えたいことは何ですか？4つのテーマ(「知り育つ」「つながる」「防災・減災」「SDGs」)の内容を考えてみてください。

てくてく
まっち

遊び方

！なじみのない内容のカードについては、「カード紹介」を読んでおきましょう。

！子どもたちの年齢や発達、まちの状況に応じて、遊び方や言葉かけをアレンジしてください。



室内で
遊ぼう！

子どもたちと 〈まちの資源〉を学ぼう

★ 同じカード探し（乳児～）

「〇〇カードはど～れだ？」

★★ メモリーゲーム（幼児～）

「〇〇カードと同じカードはど～こだ？」

★★ 名前当てゲーム（乳児～）

「これはな～んだ？」

★★★ どこで見つけたかなゲーム（幼児～）

「おさんぽで見つけたものはど～れだ？」

★★★★ かるたゲーム（幼児～）

「ちょっとあぶない道路にある便利なものはど～れだ？」

「地震や大雨で避難する時に役立つものはど～れだ？
いくつがあるよ」

「カード紹介」ページの
解説を参考にして
ヒントをアレンジ！

POINT 子どもたちの年齢や
発達に合わせて遊び方
を選んでください。



おさんぽで
遊ぼう！

子どもたちと 〈まちとのつながり〉を作ろう

歩いて探してつながって 「てくてくまっち」（乳児～）

カードの左上の穴に
リングや紐を
通せます！

1. 準備

おさんぽに持っていくカードを選びます。

- 年齢や発達、おさんぽの人数や内容に合わせてカードを選びます。
- 4つのテーマを意識して選んでみるのもオススメです。

2. 出発

カードと同じものがまちのどこにあるか
探してみましょう。

- 子どもたちの発見や気づきも大切にしましょう。
- 「本物はどんな感じかな？」「どうしてそうなっているのかな？」
- 「別の場所にも同じものがあったかな？」「いつ出会えたかな？」
- まちの人にも声をかけてみましょう。「こんにちは！」
- 大人も子どもの目線でまちを見直してみましょう。

3. ふりかえり

園に帰ったら、
今日のできごとをふりかえります。

- 子どもたちが発見したことをみんなで共有しましょう。
- 記録に残しましょう。
- 「つぎはどんなものを発見したい？」
- ほかのクラスやほかの園とも共有できるといいですね。

1

いろいろな遊び方で 何度もやってみる！

？

どうして？

「てくてくまっち」は何度も何度も遊び込むことが大切です。時期やタイミングを変えたりアレンジを加えたりしながら繰り返し遊ぶことで、子どもたちの観察眼が刺激され、日常生活と結び付いていくでしょう。

また遊び込むことで、「てくてくまっち」のねらいである4つのテーマに、子どもたちはさらに近づくことができます。

＊

もっと！

「てくてくまっち」の遊び方は無限大！本書に記した遊び以外にも、きっと楽しい遊び方があるはずです。子どもたちが夢中になって楽しめる遊び方を、子どもたちとぜひ考えてみてください。繰り返し遊ぶ中で、伝える情報も増やしたり減らしたりするなど工夫しながら、学びを深めていってください。

2

それぞれの遊びが持つ 関連性を意識する！

？

どうして？

「てくてくまっち」は、さまざまな遊び方で楽しむごとに学びが深まります。ひとつの遊び方だけでなく、いくつもの遊び方にトライしてみてください。

それぞれの遊び方で得た「発見」「経験」「知識」がつながっていくことで、カードに書かれた事柄への理解が、さらに深まっていきます。

＊

もっと！

学びを切り離さないようにするためには、子どもたちの自由な発想や意思がポイントになります。「次はどんなふうに進んでみようか？」「何に注目してみたい？」など、意欲を促す言葉がけをしながら、型にはまらない遊び方を展開させてください。子どもたちの気づきから派生していく疑問を捉え、いっしょに考えてみることも大切です。

3

子どもたちが〈まち〉と つながることをめざす！

？

どうして？

「てくてくまっち」のカードは、〈まち〉とつながる出発点です。「てくてくまっち」を活用しながら、園から飛び出してまちとつながりましょう。

絵に描かれたものは実際にみなさんのまちのどこにある／いるでしょうか？ 探し出すワクワク感や本物に出会うドキドキ感、見つけた時の達成感など、子どもたちの心はいつも以上に動き出します。

＊

もっと！

これまでとはちがう視点や方法（声かけ・連絡・次の企画など）でまちとつながることにぜひチャレンジしてみてください。子どもたちの発見を出発点に、試行錯誤しながら、園全体の活動として主体的に取り組んでほしいと思います。

！！

トライ！！

まちの地図に書き残して、自分たちだけの特別な地図（おさんぽマップ）を作ってみましょう。長期的な視点を持って地図作りに取り組むことで、まちの情報はより重層的に蓄積され、まちの人やまちの機関・組織とのつながりがより濃いものになるでしょう。

てくてく
まっち

記録シート

ちいさな取り組みでも
記録に残しておくこと
は大切です。通常の保育
活動の記録（保育日誌）
に書き残すだけではな
く、ぜひ専用の記録シー
トを作成し、「てくてく
まっち」で遊んだ時の
様子を記録してほしい
と思います。

「てくてくまっち」で
遊んだ時の様子を
記録しましょう。

- いつ、どこで、どんなふうに遊びましたか？
- どのようなねらいで取り組みましたか？
- 子どもたちの気づきや心の動きはどうでしたか？
- まちとのつながりは生まれましたか？
- 4つのテーマ＝「知り育つ」「つながる」「防災・減災」「SDGs」は取り組みの中でどう変化しましたか？

期待できる5つの効果

- 1 繰り返し遊ぶ中で生まれた「ちょっとした変化」に気づくことができます。
- 2 ちがう遊び方に取り組もうとする時にも、何を手がかりにすればよいかヒントをもたらしてくれます。
- 3 まちとのつながりをそのクラスだけのものにとどめず、園全体で共有することを可能にします。
- 4 ほかの園と、防災をテーマにした交流をしやすくします。
- 5 記録を蓄積していくと、それは園だけでなくまちの貴重な財産になります。

組 人 参加職員

遊び方 (回目) 記録者

日 時 年 月 日 () : ~ :

◆ねらい

◆エピソード

◆とくに注目したカード・まちの資源

◆子どもたちの気づき・発見・つぶやき

◆保育者の気づき・感想

◆次回に向けての課題・準備

※これは記録シート例です。ぜひ、自分たちの園に必要な項目を追加して、オリジナルの記録シートを作成してみてください。

乳幼児期の子どもたちにとっては、まちの中で出会うすべてものが新鮮です。そして、まちにあるさまざまな資源には、大人の私たちでも忘れがちな存在価値があります。その存在価値を〈知り育つ〉ことや、まちでの出会いをきっかけに〈つながる〉ことは、〈防災・減災〉に役立つ自助・共助の視点が培われていくことでもあり、それは〈持続可能な開発目標（SDGs）〉の実現に近づいていくことになります。

知り育つ

まちには子どもの育ちに活用できる資源がたくさんあります。

公園や空き地などの「遊べる場所」だけが資源ではありません。「木々」や「生き物」はまちに彩りをもたらしてくれます。「交番」や「カーブミラー」は子どもたちを守る役割を果たしています。普段は意識しない「マンホール」、「避難所標識」や「津波・海拔標識」、「防災倉庫」はいざという時に活躍する資源です。

逆に、いつもはやさしく流れる「水路」は大雨の際に表情を変えます。資源は危険な存在になることもあるのです。

また、目には見えない「人との関係

性」や、耳や鼻を楽しませてくれる「音」や「におい」もまちの中に確かに存在する大切な資源と言えます。

道を歩く子どもたちはいつでも好奇心のかたまりです。子どもといっしょなら、もっとまちを知ることができます。園外活動は、園を出た時に始まります。安全を確保した道中にこそ、すてきな出会いや刺激があります。まちを知り、まちで育つための資源を学びながら、あなたのまちが持つ魅力を発見してほしいと思います。

まちの資源を知ること
まちと関わりながら育つ

防災・減災

地域の資源や人とのつながりが深まっていけば、やがて子どもたちはまちをひとまとまりにして捉える力を蓄えていきます。さまざまな要素で構成される「まち」という空間の存在に気づくのです。

「まち」では、「いざという時」もおとずれます。おさんぽの途中かもしれません。

それでも、「てくてくまっち」を十分に経験した子どもたちは、まちのどこに何があるのかや、誰に頼ればいいのかを、すでに知っ

自助・共助の視点で
防災・減災について学ぶ

ています。情報を蓄積した園は、まちの防災の核にもなれることでしょう。

加えて、子どもたちがまちを知っていることは家庭にとっても利点となります。子どもを通してまちと家族を結ぶでしょう。

「いざという時」には、まちのみんなで助け合いましょう。

人と人とのつながりは「ソーシャル・キャピタル（社会的資本）」と呼ばれ、他者への信頼や共助のまなざしが育まれる基盤となります。困難な状況に陥った時も、助けを求めれば何とかなるだろうという期待を持つことができるようになります。

まちには多様な人が暮らしています。さまざまな世代の人がいて、働く人もいればくつろぐために外に出ている人もいます。ちょっとしたや

まちの人や機関・組織と
つながる

り取りの積み重ねで、偶然の出会いが継続的なつながりに変わり、交流が深まります。それによって、まちの人が持つ資源（まちについての知識や情報、伝承、畑や竹林など）が保育に還元されることがあります。

一方で、まちの人や機関・組織にとっても顔見知りの子どもの数が増えることは、「この子どもたちは自分たちのまちが育てているのだ」という意識の芽生えにつながることでしょ

う。よい影響は相互に生まれます。交流を深め、園を基点にした豊かな関係性をまちの中に構築してほしいと思います。

まちで子どもが育つことと
持続可能な開発目標（SDGs）
との関わりを考える

「てくてくまっち」を通した一連の取り組みは、まちに新たな関係性やまなざしをもたらします。子どもたちがまちと出会い、つながることで、まちの資源がさらに活かされ、まちの人たちもいっしょに子どもを見守っていくとする……つまり、「まちが活性化する」のです。

持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標でいうと、「てくてくまっち」の20

のカードはすべて目標11「住み続けられるまちづくりを（Sustainable cities and communities）」に該当します。なかでも、目標11を構成する10のターゲットの11-2、11-3、11-5、11-7、11bが強く関係します（p.8参照）。ほかにも、「学校」とのつながりは目標4「質の高い教育をみんなに（Quality education）」、防災・減災への学びは目標13「気候変動に具体的な対策を（Climate action）」にも関連します。

「てくてくまっち」は、ほぼすべてのSDGsの考え方を実践に移すことができ、SDGsとの関わりを身近なものにしてくれます。

SDGs

貧困、紛争、気候変動、感染症など、私たちは多くの課題に直面しています。私たちが安心して暮らし続けるためには世界中の人たちが協力しなければなりません。そこで、世界中の人々が話し合い、2030年までに達成すべき具体的な目標を定めました。それが「持続可能な開発目標（SDGs）」です。17の目標と169のターゲットに細分化されています。

公益財団法人日本ユニセフ協会 <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

つながる

SDGs

すべての「てくてくまっち」と強く関係する
目標11「住み続けられるまちづくりを」を構成する
5つのSDGsターゲット
持続可能な開発目標



ターゲット11-2 …… 2030年までに、女性や子ども、障害のある人、お年寄りなど、弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段を使えるようにする。

ターゲット11-3 …… 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような能力を高める。

ターゲット11-5 …… 2030年までに、貧しい人びとや、特に弱い立場にある人びとを守ることを特に考えて、水害などの災害によって命を失う人や被害を受ける人の数を大きく減らす。世界の国内総生産（GDP）に対して災害が直接もたらす経済的な損害を大きく減らす。

ターゲット11-7 …… 2030年までに、特に女性や子ども、お年寄りや障害のある人などをふくめて、だれもが、安全で使いやすい緑地や公共の場所を使えるようにする。

ターゲット11-b …… 2020年までに、だれも取り残さず、資源を効率的に使い、気候変動への対策や災害への備えをすすめる総合的な政策や計画をつくり、実施する都市やまちの数を大きく増やす。「仙台防災枠組2015-2030」にしたがって、あらゆるレベルで災害のリスクの管理について定め、実施する。

てくてく
まっち

関連本『まち保育のススメ おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』



萌文社

まち保育のススメ
—おさんぽ・多世代交流・
地域交流・防災・まちづくり

三輪律江、尾木まり [編著]
米田佐知子、谷口新、藤岡泰寛、
松橋圭子、田中稲子、稲垣景子、
棒田明子、吉永真理

【発行】萌文社
【定価】本体2,000円＋税
【体裁】A4変形判・並製、120頁
【発売】2017年5月
【ISBN】978-4-89491-332-5

「てくてくまっち」の根底にあるのは、「まち保育」の考え方です。

まち保育とは、子どもの育ちの舞台をまちに広げるものです。まち保育では、まちにあるさまざまな資源を最大限に活用し、まちでの出会いをつないで関係性を築くことを大切にします。そして場や機会を開き、地域社会といっしょになって、子どもが育つ土壌を作ります。

「まちで子どもを育てる」ことが、まちのモノ・ヒト・コトと関わっていくことで、やがて子どもが主体性を持って「まちで育つ」ようになり、住民の関心を広げて子どもを「まちが育てる」ように展開し、最終的には子どもを通して「まちが育つ」ことにつながるという考え方です。子どもの育ちを軸にする視点とまちを育てていく視点を交差させ、両者の可能性を引き出す新たな手法といえます。

「まち保育」の実践は、保育施設・教育施設の園外活動に限りません。子どもがまちと関わる機会は多様に作ることができます。また子育て支援の場においても、家庭生活や地域の活動においても柔軟に取り組んでほしいと思っています。

くわしくは書籍『まち保育のススメ—おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』を参考にしてください。実践や情報はfacebookページにて配信しています。合わせてご覧いただき、「てくてくまっち」にお役立てください。



最新情報はfacebookで！

<https://www.facebook.com/machihoikunosusume/>



まち保育×防災・減災
絵合わせカード
てくてくまっち

もっと！てくてくまっち
遊んで学んでつながろう！

実践力 アップガイド

発行者 ●横浜市神奈川区こども家庭支援課
●横浜市立大学国際教養学部都市学系
三輪律江研究室
●まち保育研究会

監修 稲垣景子（横浜国立大学）
イラスト たかえみちこ（カード）
編集 萌文社
印刷所 株式会社大川印刷
発行日 2022年3月31日

この副読本は、神奈川区保育・教育施設防災アドバイザー派遣事業および横浜市立大学教員地域貢献活動支援事業（協働型）『「まち保育」の観点から取り組む保育・教育施設の共創構築に向けた検討・実践』の成果物として作成したものです。

※無断複写（コピー）・複製・転載を固く禁じます。